

モデルハウス・オープンハウスにみる畳と畳空間の現状 —松江市・出雲市の場合—

正岡 さち*・肥後 久美子**

Sachi MASAOKA and Kumiko HIGO

Actual Conditions of Tatami and Tatami-space of Modelhouses and Openhouses

—The Case of Matsue-City and Izumo-City—

要 旨

- (1) 畳空間の位置は、独立して設けられているものが約6割であり、リビングの続き間が約3割であった。リビングの一角にコーナーとして位置づけられているものは少なかった。畳空間の広さは6畳が中心だった。
- (2) 畳の形状は一畳畳が60%、半畳畳が40%であり、半畳畳が畳の形状として定着しつつあることが伺えた。
- (3) 畳表の素材は、伝統的素材であるいぐさが半数以上を占めており、新素材の畳表は約4割であった。新素材のうちの7割が和紙であり、畳表の素材として、今後、和紙が使用されるケースが増えるのではないかと予想される。
- (4) 座敷飾りは約半数に設置されていた。しかし、その種類は床の間のみのもので大半を占めており、床脇や書院は非常に少なく、座敷飾りが設けられなくなっている傾向にあると言える。また、床の間のデザインを見ても、伝統的で格式のあるものでなく、質素な大きさや形であったり、洋風のデザインを取り入れていたり、住宅の座敷飾りのあり方が変化してきていると考えられる。
- (5) 畳空間のデザインは、質素な和風空間が半数を占めており、次いで洋室の要素を取り入れた空間であった。畳空間のデザインが変化してきていることが伺えた。また、格式のある座敷飾りを持つ空間の畳が半畳畳であったり、一畳畳でも畳縁が無地であったりと、元々の書院造に込められたものが失われてきていると言える。
- (6) 今後は、畳空間がより洋風化し、畳表等の素材も新素材の導入がより進むと考えられる。一方で、書院造に込められた畳空間の様式は薄れていき、座敷飾りを設置する場合も、正式な様式を崩した座敷飾りであったり、洋風化した座敷飾りを設置する空間も多くなっていくと考えられる。

【キーワード：住宅，畳空間，モデルハウス，オープンハウス，デザイン】

I. 諸 言

日本の住宅の畳空間は書院造を起源とし、木材を基調に畳が床材で、障子や襖で囲まれ、床の間、床脇、書院などの座敷飾りを備えた格式ある空間であった。また、室と室を隔てている襖を外すと広々とした空間となり、一つの空間を多様な用途に利用してきた。しかし近年、生活の欧米化とともにイス座の生活が浸透してきたことで洋風の空間が増え、住宅における畳空間の数は減少してきており、畳空間が存在しない住宅も珍しくなくなってきた^{1) 2)}。

また、空間内部のデザインも、従来の書院造の意匠を受け継いだものに加えて、意匠を簡略化・洋風化した現代的デザインも見られるようになってきている。書院造の特徴ともいえる座敷飾りについては設置率が下がり、その代わり押入設置率が9割を越えるという報告³⁾もあり、畳空間の格式が薄れて来ているともいえる。

このように、現代の畳空間は多様化している。

既往の研究^{1) -13)}より、畳空間は心が安らぎ落ち着ける空間と捉えられている一方で、若い世代を中心に畳や畳

空間への愛着が薄れている傾向があり、空間のデザインは、現代性をとり入れた新しいデザインを志向する者が存在するようになり、全体傾向としては、男性より女性、高齢層より若年層、畳室の多い住宅で育った者より少ない住宅で育った者、町家住宅や農村住宅より集合住宅に住んでいる者、について現代的なデザインに対する志向がみられたことが明らかになっている。

また、畳空間の必要性についても、必要とする世帯が多いものの、今後は畳空間のない住宅が増えると考えられている。筆者らの研究¹¹⁾でも、若い世代ほど畳への愛着が薄く、若い世代や女性は洋室に近い雰囲気の空間デザインを好むといった傾向があった。

以上のことから、今後は住宅への畳空間の設置率はさらに減っていき、内部デザインについては伝統的な畳空間は減り、床材は畳であっても現代住宅に合わせやすい洋室に近いデザインの空間が増えていくと予想し、伝統的な空間は住宅以外の旅館や飲食店などといった場で残っていくものと推測する。

一方、床材である畳そのものをみてみると、伝統的な畳表の素材はいぐさであり、その素材・香りが親しまれ

* 島根大学教育学部人間生活環境教育講座

** 元島根大学教育学部学生

てきた。しかし、カビが生えたり、色あせたり、色やデザインの選択肢が無いといった欠点があり、これらは居住者にも認識されている⁵⁾。そのため、近年では天然のいぐさの欠点を改良した、手入れが簡単なものや、初めから汚れにくく加工してあるもの、いぐさ以外の素材の利用、様々な色の使用など、住宅の空間デザインの多様化や生活の洋風化といった現代の空間や、生活者のニーズに合わせた様々な新素材の畳が開発され、実際に使われ始めている。

しかし、これまで述べてきたように畳空間のデザインが多様化していると言われてはいるものの、具体的にどのように変化してきているのか、また、近年開発され使用されているいぐさ以外の新素材の畳表がどの程度導入されているのかを明らかにした研究は見当たらない。

そこで、本研究では、まず、モデルハウスとオープンハウスを対象として畳と畳空間の現状を分析し、畳と畳空間の現状を把握することを目的として調査を行った。

II. 調査概要

1. 調査対象及び調査期間

松江市・出雲市内のモデルハウス、オープンハウスを対象とした。

モデルハウス、オープンハウスを調査対象としたのは下記の理由による。

モデルハウスは住宅メーカーなどが建設した実物大の展示用住宅であり、実物の空間で外観や内部の確認ができる。構成は各メーカーが得意とする要素を始め、最先端のものや流行等、居住者が求めていると考えられる空間や設備が取り入れられたり、新しい提案が行われている。また、オープンハウスは、実際に居住する住宅を完成直後に施主の好意で住宅内部を公開するものであり、モデルハウス以上に住宅の現状を反映していると考えられる。

調査対象数は、モデルハウス20社33戸38室、オープンハウスは13社13戸17室で、全体で55室を対象として分析した。モデルハウス20社のうち1社の1戸については畳空間がなかったため、分析からはずした。

調査期間は2012年8～10月である。

2. 調査内容

調査するにあたって、まずチェックリストを作成した。項目は、リビングとの関係からみた畳空間の位置、畳空間の広さ、畳の形状、畳表の素材、縁の状態（有無・色・柄）、座敷飾り（有無・種類）、畳空間のデザインの傾向、建設年である。

畳表の素材等、確認が必要な部分については、正確を期すために、モデルハウス・オープンハウスの担当者に確認を行った。

デザインの分類については、正岡らの分類¹¹⁾を用いた。

なお、写真撮影が許可された住宅については写真撮影を行った。許可が得られなかった住宅については、分析の資料とするために、イラストで描きとめた。

III. 結果及び考察

表1に対象の畳空間55室の現状を一覧にまとめた。以下、それぞれについて詳細に分析する。

(1) 畳空間の位置と広さ

まず、畳空間の位置について、リビングとの関係から、リビングと廊下や壁など隔てられ独立して設けられた独立タイプ（以下、「独立」と略す）、リビングから直接行き来でき、間に建具を設けて、建具を閉じると畳空間が独立して使用できるよう設けられた続き間タイプ（以下、「続き間」と略す）、畳空間がリビングの一角にコーナーとして位置づけられており、リビングとの間に建具がなく空間としてはリビングと一体化している畳コーナー（以下、「コーナー」と略す）の3タイプに分類した。コーナーの例を図1に示す。なお、廊下等とリビングの2箇所以上に入出口がある場合は続き間として分類した。



図1 畳コーナーの例

畳空間の位置の結果を図2に示す。独立して設けられたものが約6割であり、続き間として設けられたものが約3割であった。モデルハウスとオープンハウスを比較すると、オープンハウスの方が独立が多く、7割を占めていた。一方、コーナーは全体的に少なかった。伊東らの調査⁶⁾や川村らの調査⁷⁾によると、続き間として設けられる割合が高いと報告されているが、今回の調査では、モデルハウス・オープンハウスともに独立が多かった。特に、実際に居住するために建てられたオープンハウスで独立が多かったことから、松江市・出雲市では、独立したタイプが求められる傾向にあることが考えられる。

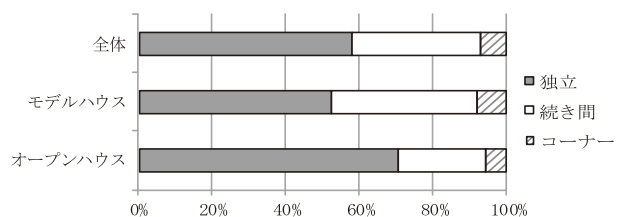


図2 畳空間の位置

表1 対象の畳空間の現状の一覧

| | メーカー | 畳表 | | | 縁 | | | リビングとの関係 | 広さ(畳) | 床飾り | デザイン | 建設年 |
|---------|------|--------|----------|-------|----|-----|-----|----------|-------|-----------|------|------|
| | | 形 | 色 | 素材 | 有無 | 色 | 柄 | | | | | |
| モデルハウス | A-1 | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | A-2 | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 4.5 | 床の間 | 3 | 2011 |
| | B-1① | 半畳 | グレー(濃・薄) | 樹脂 | 無 | — | — | コーナー | 4 | — | 5 | 2006 |
| | ② | 半畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 8 | 床の間・床脇・書院 | 1 | 2006 |
| | B-2 | 半畳 | グレー(濃・薄) | 樹脂 | 無 | — | — | 続き間 | 6.2 | 床の間・書院 | 4 | 2008 |
| | B-3 | 半畳 | 緑(濃・薄) | いぐさ | 無 | — | — | コーナー | 6.44 | — | 4 | 2012 |
| | B-4 | 半畳 | 薄い黄 | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 4.5 | 床の間 | 4 | 2012 |
| | B-5① | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 10 | — | 3 | 2007 |
| | ② | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | 無 | — | — | コーナー | 4.9 | — | 5 | 2007 |
| | C-1 | 半畳 | 薄い黄 | いぐさ | 無 | — | — | 独立 | 6 | 床の間 | 4 | 2010 |
| | C-2① | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 続き間 | 8 | 床の間・床脇 | 3 | 2007 |
| | ② | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 続き間 | 6 | — | 3 | 2007 |
| | C-3 | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 緑 | 有 | 独立 | 4.5 | 床の間 | 4 | 2012 |
| | D-1① | 一畳 | 薄緑 | 和紙 | 有 | グレー | 有 | 独立 | 8 | 床の間 | 3 | 2002 |
| | ② | 一畳 | 薄緑 | 和紙 | 有 | グレー | 有 | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2002 |
| | D-2 | 一畳 | 薄い黄 | 和紙 | 有 | グレー | 有 | 続き間 | 6 | 床の間 | 4 | 2002 |
| | E | 一畳 | 薄い黄 | 和紙 | 有 | グレー | 無 | 続き間 | 8 | 床の間・床脇・書院 | 1 | 1998 |
| | F | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | グレー | 無 | 続き間 | 6 | 床の間 | 3 | 2007 |
| | G | 半畳 | 薄緑 | 和紙 | 無 | — | — | 続き間 | 7.24 | — | 5 | 2011 |
| | H-1 | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 8 | 床の間 | 3 | 2002 |
| | H-2 | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 6 | — | 3 | 2002 |
| | I-1 | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 4.5 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | I-2 | 半畳 | 薄い黄 | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 6 | 床の間・床脇 | 4 | 2005 |
| | J | 一畳 | 薄い黄 | 樹脂 | 無 | — | — | 続き間 | 5.4 | — | 4 | 2012 |
| | K-1 | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 4.5 | — | 4 | 2012 |
| | K-2 | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 4.5 | 床の間 | 4 | 2012 |
| | L | 一畳 | 薄緑 | 樹脂 | 有 | 紺 | 有 | 独立 | 8 | 床の間 | 3 | 2001 |
| | M-1① | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 続き間 | 6 | — | 4 | 2012 |
| | ② | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 紺 | 有 | 独立 | 8 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | ③ | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 紺 | 有 | 独立 | 6 | — | 4 | 2012 |
| M-2 | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 緑 | 有 | 独立 | 6 | 床の間 | 4 | 2012 | |
| N-1 | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | 無 | — | — | 続き間 | 5 | — | 4 | 2004 | |
| N-2 | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 6 | — | 4 | 2012 | |
| O | 半畳 | 黄(濃・薄) | 和紙 | 無 | — | — | 続き間 | 4.5 | 床の間 | 3 | 2011 | |
| P | 半畳 | 薄緑 | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 | |
| Q | 半畳 | 薄緑 | 和紙 | 無 | — | — | 独立 | 6 | — | 4 | 2005 | |
| R | 半畳 | 茶(濃・薄) | 樹脂 | 無 | — | — | 続き間 | 4.5 | — | 5 | 2012 | |
| S | 一畳 | グレー | 樹脂 | 有 | 紺 | 無 | 続き間 | 4.5 | — | 4 | 2012 | |
| T | | | | 畳空間なし | | | | | — | — | 2012 | |
| オープンハウス | a | 一畳 | 薄緑 | いぐさ | 有 | 緑 | 有 | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | b | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | c① | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 有 | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | ② | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 有 | 独立 | 4.5 | — | 3 | 2012 |
| | d | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 6 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | e | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 6 | — | 4 | 2012 |
| | f | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | — | — | — | 続き間 | 4.5 | 床の間 | 5 | 2012 |
| | g | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 緑 | 無 | 独立 | 4 | — | 4 | 2012 |
| | h① | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 有 | 独立 | 8 | — | 3 | 2012 |
| | ② | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 有 | 独立 | 6 | — | 3 | 2012 |
| | ③ | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 6 | — | 3 | 2012 |
| | i | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | — | — | — | 続き間 | 4.5 | — | 4 | 2012 |
| | j | 一畳 | 薄い黄 | いぐさ | 有 | 紺 | 無 | 独立 | 5.8 | 床の間 | 3 | 2012 |
| | k | 半畳 | 緑(濃・薄) | 和紙 | — | — | — | 続き間 | 4.5 | — | 4 | 2012 |
| | l | 半畳 | 茶(濃・薄) | 和紙 | — | — | — | コーナー | 4.5 | — | 4 | 2012 |
| m① | 半畳 | 赤・黒 | 樹脂 | — | — | — | 続き間 | 6 | — | 5 | 2012 | |
| ② | 半畳 | 薄い黄 | 和紙 | — | — | — | 独立 | 6 | — | 4 | 2012 | |

また、畳空間の広さは、6畳が中心であり、平均の広さは、モデルハウスが6.04畳、オープンハウスが5.55畳で、オープンハウスの方が若干狭かった。

(2) 畳の現状

畳の形状は一畳畳か半畳畳のどちらかである。本調査では一畳畳が60%、半畳畳が40%であった。半畳畳が住宅に定着していることが伺えた。また、縁についてみると、一畳畳は1室を除き残り全てが縁有、半畳畳は全て縁無であった。

次に畳表の素材についてみていく。

畳表の素材は従来はいぐさだが、現在では、様々な素材で畳表が作られるようになってきている。図3に、現在使われている畳表の素材の一部の例を示す。いぐさは1本1本の太さが異なること、和紙と樹脂は太さがいぐさより太く一定の太さであること、樹脂は和紙に比較して光沢があることで見分けることができる。

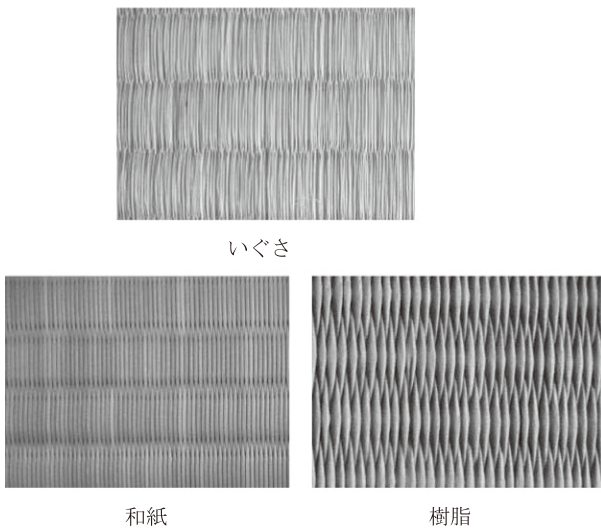


図3 畳表の素材の例

図4に畳表の素材の結果を示す。いぐさが半数以上を占めていたが、いぐさ以外の新素材の畳表は約3割が和紙、約1割強が樹脂だった。なお、新素材の畳表はこの2種類以外にも水草やレザー等多くの種類が発売されているが、この結果から、実際に導入されている割合が高いのは、和紙と樹脂であると考えられる。

モデルハウスとオープンハウスを比較すると、モデルハウスで新素材の畳の導入率が高く半数を超えていた。一方、オープンハウスではいぐさが6割以上を占めており、実際に居住するために建てられて住宅においては、畳表の素材は現状ではいぐさが主流であると考えられる。しかし、4割近くはいぐさ以外の素材であることから、新素材の畳が浸透し始めていることが伺えた。以上の結果から、今後、畳表の素材として、和紙が使用されるケースが増えるのではないかと予想される。

なお、モデルハウスで新素材の畳表の導入率が高いのは、モデルハウスという性質上、人の出入りが多いため耐久性が求められること、新素材の畳はいぐさのように

色褪せしないため年月が経っても見栄えが変わらないこと、新しい素材を来場者にアピールする目的もあること、等が理由であると考えられる。

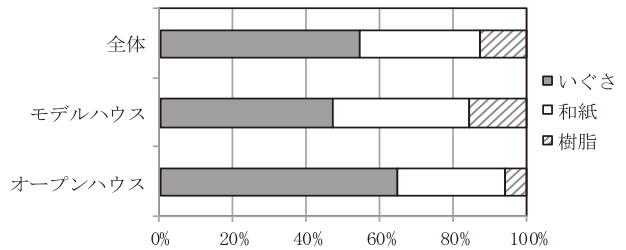


図4 畳表の素材

図5に畳の形状と畳表の素材の関係を示す。一畳畳は8割がいぐさであり、一畳畳の場合はいぐさが主流であると言える。一方、半畳畳は7割が和紙であり、9割近くがいぐさ以外の素材であることから、半畳畳の場合はいぐさ以外が主流となっていることが考えられる。

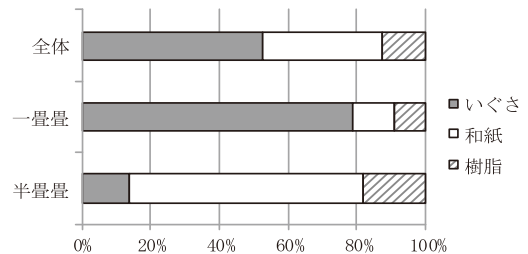


図5 畳の形状と畳表の素材の関係

また、図6に示すように、従来とは異なった織り方や色使いの畳もあった。これらをモデルハウスやオープンハウスに来場した人が目にすることによって、従来の畳にない特徴を持った畳や畳空間があることを知るきっかけとなるとともに、住宅を建てる際の選択肢としてくわえられることによって、畳空間の多様化が進むことにつながる事が推測できる。

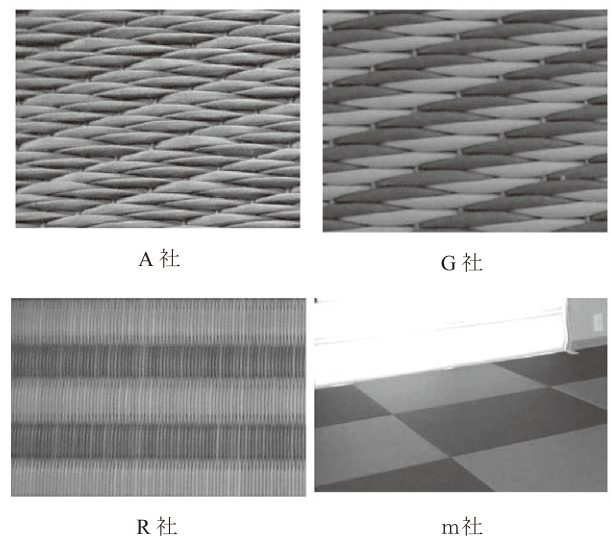


図6 新しい畳表の織り方や色彩の例

いぐさは自然素材のため調湿作用や保温作用がある一方で、特に設置当初はカビがはえたり色褪せたりする欠点があり、それらが居住者にも生活上の不都合さとしても認識されているという報告⁶⁾もある。その欠点を補いつつ、いぐさに近い調湿作用も期待できることから、畳表の素材として、今後、和紙が使用されるケースが増えるのではないかと予想される。

畳縁についてみると、縁有の畳のうち縁の柄は柄有が47%、無地が53%と、わずかではあるが無地のものが多いという結果であった。歴史的背景をみると、畳縁はそこに座る人の身分を規定するために進歩発展してきたものであり、縁無畳や縁があっても無地の畳は低い身分の者が使用するものとされてきた。本調査のモデルハウスやオープンハウスの畳縁の傾向をみると、歴史の中で培われてきた畳縁に込められたものが、現代では意味をもたなくなってきたのではないかと考えられる。

(3) 座敷飾り

図7に座敷飾りの有無の結果を示す。

座敷飾りは約半数に設置されていた。しかし、その種類を見ると、設置されているのは床の間のみというケースがほとんどであった。床脇を設けている室もあったが少数であり、特に書院は2室のみであった。特に、オープンハウスでは7割近くで座敷飾りが設置されておらず、座敷飾りが設けられなくなって来ていると考えられる。この結果は樋口の報告⁶⁾と同様の結果であった。太田は、床の間は日本住宅の象徴であり、装飾の場や格式の象徴等5つの役割があり、「装飾のための床の間は失われることはない」¹⁴⁾と述べているが、本調査の結果から、正式な形式の座敷飾りが造りつけられなくなっただけでなく、床の間も設けられない傾向になっていると言える。

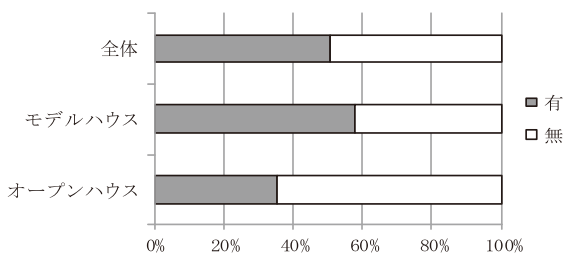


図7 座敷飾りの有無

畳空間の位置と座敷飾りの有無の関係を見た結果を図8に示す。独立の場合、座敷飾りが有る割合が6割を越えるが、続き間になると4割と少なくなる。コーナーの場合は床飾りが無しが100%である。全体が洋風化している住宅が多くなった現在、洋風のリビングに続いて設けられる空間の場合、洋風の空間の雰囲気合わないものとして設置されない傾向にあるのではないかと考えられる。しかし、独立の場合でも座敷飾りが設置されないケースも4割存在し、座敷飾りそのものが、畳空間に設置されなくなってきたのではないかと考えられる。

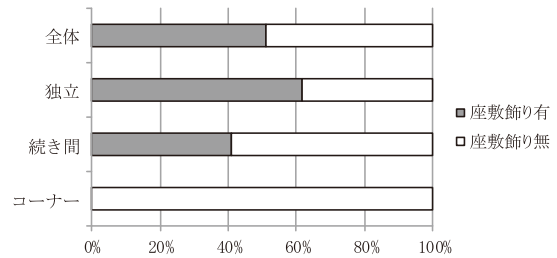


図8 畳空間の位置と座敷飾りの有無の関係

(4) 空間全体のデザイン

最後に、畳空間全体のデザインを5つの空間に分類した。デザインの分類については、正岡らの分類¹¹⁾を修正したものを用いた。

正岡らの分類においては、「3. 質素な座敷飾りを持つ空間」であったが、今回の調査において、障子・襖等があり全体的に和風の雰囲気であるものの座敷飾りを持たない空間があったため、分類を修正した。分類は下記の5つである。

- ① 伝統的な書院風空間
- ② 書院風以外の伝統的空間
- ③ 質素な和風空間
- ④ 洋風の要素を取り入れた空間
- ⑤ 洋室に近い空間

全事例を5つのデザインに分類した結果を図9に示す。

今回の調査では、①の伝統的書院風の空間はわずかで、②に該当するものはなかった。一方で、全体的に③と④が大半を占める結果となり、伝統的書院風空間よりも、⑤洋室に近い空間の方が多いという結果であった。座敷飾りが設置されなくなってきたこととも関連して、住宅内部や生活の洋風化に伴い、畳空間自体が洋風の空間の中で異質の雰囲気を持つのではなく、洋風の空間や生活に馴染むデザインが好まれていると考えられる。

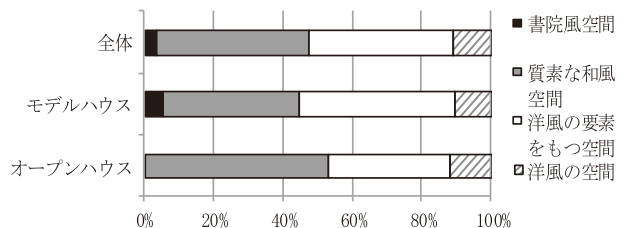


図9 畳空間のデザイン

空間のデザインと座敷飾りの関係を見た結果を図10に示す。伝統的な書院風空間と洋室に近い空間の事例が少ないので断言はできないものの、洋風に近い雰囲気になる程、座敷飾りの設置率が低くなる傾向にある。

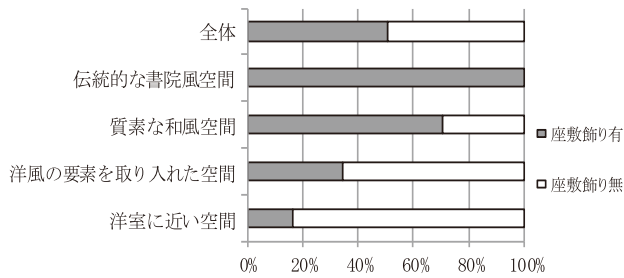


図10 空間デザインと座敷飾りの有無の関係

また、空間デザインと畳表の素材の関係を見た結果を図11に示す。伝統的な書院風空間の事例が少ないことから参考として見るとしても、空間が洋風に近くなる程、和紙・樹脂の割合が高くなり、いぐさが使われなくなる傾向が見られた。特に、洋室に近い空間では、いぐさの使用は0であった。

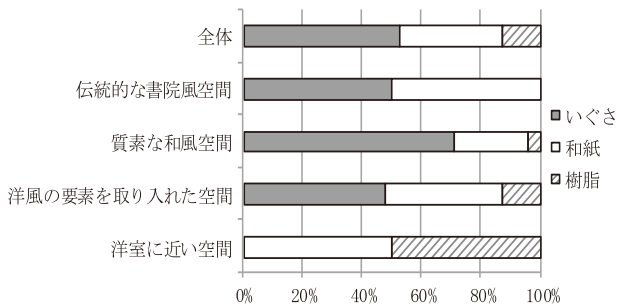


図11 空間デザインと畳表の素材の関係

図12に畳空間の位置と空間デザインの関係の図を示す。独立の場合は和風の空間が6割以上を占めるが、続き間の場合は7割が洋風の要素を取り入れた空間と洋室に近い空間が占めている。コーナーの場合は100%が洋室に近い雰囲気となっており、床材が畳であるだけで、空間全体の雰囲気はリビングに続く空間として、洋風のデザインで造られていると考えられる。

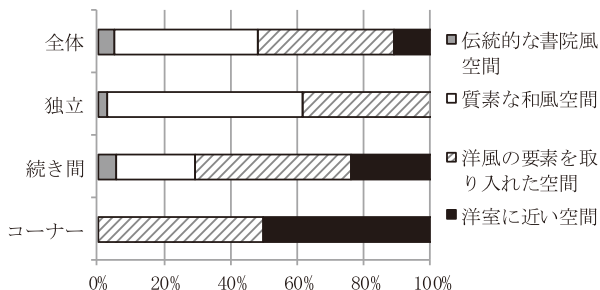


図12 畳空間の位置と空間デザインの関係

さらに細かく内部のデザインを見てみると、従来の畳空間や座敷飾りの造りとは大きく異なる空間が見られた。たとえば、図13のように、洋風のデザインにアレンジした床の間があった。



図13 洋風のデザインの床の間

また、図14のように、窓にロールブラインドをかける等、しつらいは完全に洋風の空間も見られた。



図14 窓にロールブラインドをかけた空間

さらに、図15の例のように、伝統的な床の間や床脇を持つ空間に無地の縁の畳を敷いたり、図16のように、縁無の畳を敷くといった空間もあった。



図15 伝統的座敷飾りを持つ空間に無地の縁の畳を敷いた空間



図16 伝統的座敷飾りを持つ空間に
縁無し一畳畳を敷いた空間

本来、座敷飾りの形式や畳縁には歴史的な背景があり、正式な形式がある。しかし、現在では、そういったことを考慮して空間がデザインされる傾向が薄れているものと考えられる。

住宅全体が洋風化してきた中、畳空間も住宅全体の雰囲気に合わせてデザインされるようになってきていると考えられ、特に他の空間とつながって設置される場合は全体の統一感を出すためかより洋風化したデザインの畳空間が設置されていると言える。また、その畳空間のデザインが洋風である程、いぐさ以外の新素材の畳表が使用される割合が高くなっている。

今回は、住宅建設を考える人がその参考とするためのモデルハウスとオープンハウスを分析したため、実際の住宅の畳と畳空間の現状を正確に反映している結果とは言い難い。しかし、オープンハウスは実際に住む住宅を入居前に公開しているものであるため、現状を反映していると考えられる。また、モデルハウスを見学し、そこで新たな畳空間デザインや新素材の畳を知ることで、それを自宅の設計に取り入れることも考えられる。

以上のことから、今後は、畳空間がより洋風化し、畳表等の素材も新素材の導入がより進むと考えられる。一方で、書院造に込められた畳空間の様式は薄れていき、座敷飾りを設置する場合も、正式な様式を崩した座敷飾りであったり、洋風化した座敷飾りを設置する空間も多くなっていくと考えられる。

IV. 要 約

本研究は、今後の畳と畳空間の方向性を探ることを目的に、モデルハウスとオープンハウスを対象として、畳と間の現状を分析した。

- (1) 畳空間の位置は、独立して設けられているものが約6割であり、リビングの続き間が約3割であった。リビングの一角にコーナーとして位置づけられているものは少なかった。畳空間の広さは、6畳が中心だった。

- (2) 畳の形状は一畳畳が60%、半畳畳が40%であり、半畳畳が畳の形状として定着しつつあることが伺えた。
- (3) 畳表の素材は、伝統的素材であるいぐさが半数以上を占めていたが、新素材の畳表は約4割であった。そのうちの7割が和紙であり、畳表の素材として、今後、和紙が使用されるケースが増えるのではないかと予想される。
- (4) 座敷飾りは約半数に設置されていた。しかし、その種類は床の間のみのもので大半を占めており、床脇や書院は非常に少なく、座敷飾りが設けられなくなっている傾向にあると言える。また、床の間のデザインを見ても、伝統的で格式のあるものでなく、質素な大きさや形であったり、洋風のデザインを取り入れていたり、住宅の座敷飾りのあり方が変化してきていると考えられる。
- (5) 畳空間のデザインは、質素な和風空間が半数を占めており、次いで洋室の要素を取り入れた空間であった。畳空間のデザインが変化してきていることが伺えた。また、格式のある座敷飾りを持つ空間の畳が半畳畳であったり、一畳畳でも畳縁が無地であったりと、元々の書院造に込められたものが失われていると言える。
- (5) 今後は、畳空間がより洋風化し、畳表等の素材も新素材の導入がより進むと考えられる。一方で、書院造に込められた畳空間の様式は薄れていき、座敷飾りを設置する場合も、正式な様式を崩した座敷飾りであったり、洋風化した座敷飾りを設置する空間も多くなっていくと考えられる。

V. 引用文献

- 1) 萩原美智子：「住宅の維持管理と消費者の知識－住宅情報誌にみる和室の変化と学生の畳知識使用方」、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、p.1483-1484（2005）
- 2) 高岡大輔、鈴木義弘、湯浅裕樹、岡俊江、切原舞子：「LD空間と和室のしつらえからみた起居様式と和室のプラン選好について－現代住宅における平面構成の変容に関する研究 第9報」、日本建築学会九州支部第52号、p.149-152（2013）
- 3) 樋口栄作：「住宅誌掲載の現代独立住宅における畳室の領域性と格式性に関する研究」、日本建築学会計画系論文集 第583号、p.1-7（2004）
- 4) 沖田富美子：「家庭生活空間としての和室に関する研究－第2報 集合住宅における和室の使われ方と評価」、日本家政学会第52回大会研究発表要旨集、p.222（2000）
- 5) 伊東理恵、今井範子、越塚恭子：「畳空間デザインに対する志向性の検討－中京圏の注文戸建て住宅における－」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、p.33-34（2001）

- 6) 伊東理恵、今井範子、川村道乃：「居住者意識からみた畳空間の動向－首都圏の注文戸建住宅における－」、日建築学会大会学術講演梗概集（東海）、p.359-360（2003）
- 7) 川村道乃、今井範子、伊東理恵：「住宅平面における畳空間の動向－首都圏の注文戸建住宅における－」、日本家政学会誌 Vol.57、No.1、p.39-52（2006）
- 8) 正岡さち、久常智子：「松江市における畳空間の使い方と今後の方向性」、島根大学教育学部紀要第43号、p.97-101（2009）
- 9) 田中宏幸卓、鈴木義弘：「床の間の存在基盤に関する研究－明治・大正・昭和初期における史的考察－」、日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）、p.367-368（2010）
- 10) 石川友樹、鈴木義弘、岡俊江、湯浅裕樹、切原舞子：「床の間の要否と座敷（和室）の使い方について－現代住宅平面構成の変容に関する研究 第7報」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、p.111-112（2011）
- 11) 正岡さち、小野聡美：「地方都市の住宅における今後の畳空間の方向性」、島根県松江市の場合島根大学教育学部紀要第45巻、p.95-99（2011）
- 12) 和知克典、鈴木義弘、湯浅裕樹、岡俊江、切原舞子：「座敷と和室の比較分析（床の間の有無が平面構成や生活に与える影響）－現代住宅における平面構成の変容に関する研究 第4報」、日本建築学会九州支部第50号、p.249-252（2011）
- 13) 白井宏生、鈴木義弘、湯浅裕樹、岡俊江、切原舞子：「居室面積からみた和室への要求構造の分析－現代住宅における平面構成の変容に関する研究 第8報」、日本建築学会九州支部第51号、p.257-260（2012）
- 14) 太田博太郎：「床の間－日本住宅の象徴」、岩波書店、p.191（1978）